

辞令発令について

令和3年6月1日付け

【医師職 副院長】

高島 弘行 市立長浜病院副院長兼診療局循環器内科責任部長事務取扱兼内科責任部長事務取扱

【医師職 部長級】

田久保 康隆 市立長浜病院診療局長兼医療安全管理室管理監（医療安全担当）兼がん対策推進室管理監兼がん相談支援センター長事務取扱兼診療局呼吸器外科責任部長事務取扱

【医師職 課長級】

森田 善方 市立長浜病院診療局長補佐兼腎臓代謝内科責任部長兼人工透析センター長兼患者総合支援センター副センター長

大野 暢宏 市立長浜病院診療局養病棟責任部長兼感染制御部責任部長兼医療安全管理室管理監（感染担当）

第315回開放型病床生涯教育研修会のお知らせ

日 時：令和3年8月5日（木）17：30から19：00

テーマ：当院の訪問看護の現状について ～コロナ禍における1年間～（仮）

講師：市立長浜病院 がん性疼痛看護認定看護師・在宅慢性期領域特定看護師

会場：市立長浜病院 本館2階第2会議室

※原則、Zoomでのご参加をお願いします。なお、会場での参加は先着20名とさせていただきます。

申込み：FAXまたはメールでお申し込みください。

※申し込み方法等は、別添のチラシをご参照ください。

※日本医師会生涯教育制度指定講習会として申請します。

※新型コロナウイルス感染症の拡大の推移により、開催方針に変更がある場合は速やかにご案内いたします。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

お知らせ

地域医療連携室の業務時間の変更について

毎月第2・第4木曜日は17：15に地域医療連携業務を終了させていただきます。

なお、FAXは24時間稼働しておりますが、お返事は翌日となります。皆さま方には、ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

東京2020オリンピック競技大会の開催まで1か月を切りました。今回のオリンピックは新型コロナウイルス感染症の影響により何かと振り回されたオリンピックになりましたが、安心安全なオリンピックが開催され、選手の皆さまが実力を発揮できるよう願っています。



市立長浜病院 地域医療連携だより

令和3年7月1日号 No.199

理念
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を發展させ、
地域完結型の医療を進めます。

市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室
〒526-8580 長浜市大茂町 313 番地
TEL：0749-65-2720
FAX：0749-65-2730
<http://www.nagahama-hp.jp/>



救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
厚生労働省臨床研修指定病院
周産期協力病院
地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。7月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

副院長就任のご挨拶

副院長 兼 循環器内科責任部長 高島 弘行

日頃から先生方には地域医療連携を通じて大変お世話になっております。

令和3年6月1日付けで副院長を拝命致しましたので、自己紹介とご挨拶を申し上げます。

私は平成5年に滋賀医大を卒業して循環器内科に入局しました。研修医1年目のとき、「こんな人になりたい！」と思った憧れの先生が、当時の滋賀医大のカテーテル室長で、現在、湖北医師会会長をされている森上直樹先生でした。残念ながら数ヶ月で森上先生は当院の循環器内科部長として異動されてしまいましたが、先生に手紙を書きましたところ、12人もいた同期の中で晴れて弟子入りできなかった次第です。

森上先生に循環器内科医の手ほどきをして貰った3年間は毎日本当に充実していました。

その後は静岡No.1のカテーテル施設である岡村記念病院を経由して滋賀医大に戻っています。大学では10年間、カテーテル室長を任されて貴重な経験を積むことが出来ました。

平成22年に当院へ戻って来て、早くも10年が過ぎていきます。現在の循環器内科は、虚血性心疾患や末梢動脈疾患に対するカテーテル手術は合わせて数百例と既に全国区の症例数ですし、心房細動などの不整脈に対するアブレーション手術、植え込み型除細動器(ICD)やペーシングによる心不全治療(CRT)も可能となり、市立長浜病院は、心臓血管外科と併せて漸く湖北の循環器センターとしての体制を整えることができました。これも先生方の温かいご支援のおかげとあらためて厚く御礼を申し上げます。

当院もコロナ禍に加え、産婦人科の大幅縮小など大きな変革にさらされています。しかしこのような状況だからこそ、当院が最も重要視すべきなのは病院における本来の日常診療そのものと考えています。

私たちは日頃から、決して諦めない治療、いかなる患者様のご期待にもお応え出来る、より高い水準の治療をこの湖北の地で実施していくことが使命であると思っています。

今後ともどうか何卒ご指導の程、お願い申し上げます。



緑の下の力持ち、地域・病院・患者の潤滑油を目指して

当センターでは、外来受診時から入院および退院後を見据えて、在宅・地域へスムーズに繋がるよう支援を行っています。

患者総合支援センター副センター長 兼 腎臓代謝内科責任部長 森田 善方

2021年6月1日をもって患者総合支援センター副センター長を拝命いたしました腎臓代謝内科の森田善方です。

なんだか分不相応で荷が重いなあ・・・そもそも具体的には何をしている部署なんだ？（いつも自分は頼りにしている部署なのに我ながら酷いですね！）と思いつつ、当院ホームページを見て患者総合支援センターについて見てみましたところ、以下の説明がありました。

「当センターでは、外来受診時から入院および退院後を見据えて、在宅・地域へスムーズに繋がるよう支援を行っています。」

これを見ると「外来⇄入院」「かかりつけ医⇄病院」と普段から自分が行っている医療をサポートする部署なんだという事が分かりました。

自分自身も体を悪くして病院にかかったことがありますし、子どもを小児科に連れて行ったこともあります。受診する患者の立場って不安が一杯だなあと感じていました。そんな中、病院スタッフの対応で励まされたり安心したりした事もあります。

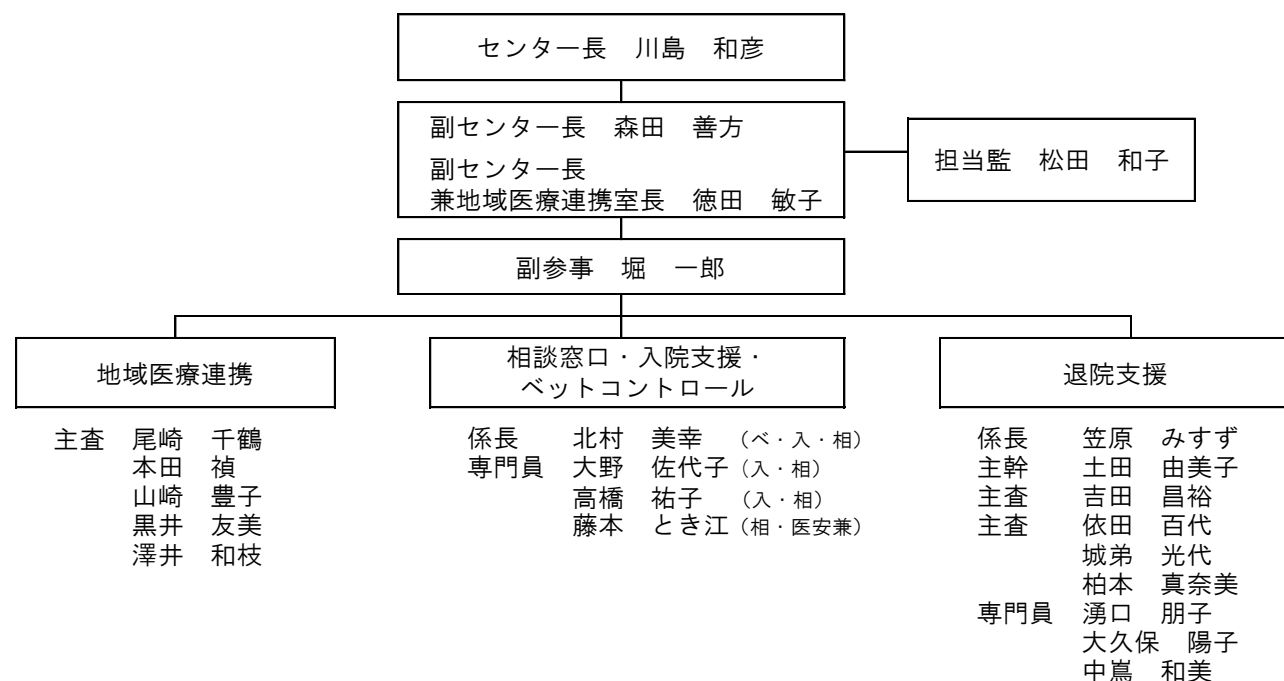
自分が専門にする腎臓疾患、糖尿病・内分泌疾患においても地域のかかりつけ医の先生のご紹介は必須で、紹介なくしては当科の診療は成り立ちません。どれだけ自分達が良い医療を提供したい！と思っても、目の前に患者さまが来てくれないとどうにも始まりません。

また患者さまが地域の中で安心して過ごすためにもかかりつけ医の医療は最大の支えですし、かかりつけ医と併診させていただくことは自分自身の医療においてもメリットしかありません。そう考えると、とてもやり甲斐のある部署であると改めて思いました。

自分に出来る事がどれくらいあるか分かりませんが、当院にいる頼もしい沢山の仲間にも助けをもらいながら楽しくニコニコ取り組んでいきたいなと思います。地域の先生方にもご指導いただきながら微力ながら湖北地域の医療に少しでも貢献できるように取り組みますので、どうぞよろしくお願いいたします。



【患者総合支援センター 地域医療連携室 組織図】



内視鏡センターのご紹介

内視鏡センター センター長 今枝 広丞

当院の消化器内科が、2018年10月に新たに新設及び増員されて、およそ2年半が経過しました。医院や診療所の先生方よりご紹介いただく患者様の数も年々増加し、内視鏡検査の件数も急増しております。

そのためこの度、従来の内視鏡室から内視鏡センターへと規模の拡大・拡充を行い、それに伴い令和3年5月10日、内視鏡センターを24年ぶりに移転しました。

内視鏡検査室の増設や内視鏡機器の増設も行い、対応できる検査件数も大幅に増えました。

今回、特に大幅に変化を加えたのが、鎮静後安静のためのリカバリールームです。これまで検査をためらっていた患者様にも、安心して安全に検査を受けていただけるようにいたしました。このリカバリー用のベッドは検査台と兼用で、患者様自身はベッドから降りることなく、検査後そのままリカバリールームに移動することができます。

また、受付を設置し、患者様の待合や咽頭麻酔や大腸内視鏡検査腸管洗浄剤を内服するための部屋も拡張いたしました。

受付から待合へ、内視鏡検査から終了後の説明までスムーズに検査が進むよう、内視鏡センター一同、努力して参ります。これまで同様、この新規内視鏡センターをよろしくお願い申し上げます。

